



1 店内にディスプレイされるワーク製ホイールを前に笑う水沢大正。自身の経験をもとにした言葉には的確な心算の入りがある

「M4は足まわりの軽量化設計が進みました結果、ホイールを軽量化すると高速走行時にバクつきがあります。ST1は誘導ビースなので特別軽くはないのですが、それがM4には良い作用となって表れます。実際、オーナーの経験値がストリームのみの使用です。さらにサーキットを走るオーナーにも適しています。このM4も赤は僕自身からストリートからサーキットまで使えるオナーカーですが、FMB01は比べて遥かに重たいが、フォルクア女性や高級感を求める方にもFMB01を、普段の運転をより快適に、楽しくを求める方にもST1を僕は推します。」

単にスペック至上論なのではなく、クルマ本体でホイールを選ぶプロショップならではの接客や、呼びかけでもあった。



1あまり知られていないワークは自社ファクトリーにて鍛造タイヤも製造。設計・製造とE-GF選手権と同じスタンスが認められることで高級感を演出している



11枚の中空化シャフトとコンテクトの構造。異なる車種別用途に合わせた剛性の車軸と、車軸とタイヤのエンタール処理とあらゆる部分に精度の高さが見てとれる

SPEC  
GNOSIS FMB01  
(F/R 51x19+20) (R/O 51x19+35)  
カラー ブラウン



1ワークが用意する3ピース構造にもってこそ、その性能はインジケータがオーバーゲージ。そして、重量感とベタベタの剛性。長持ちST1は、M4のワークを最大限に引き出せる



1ワークマシンのホイールに接続するコンプレックス。これは3ピース構造が、高剛性を確保する。その結果、ランクルから立体的な構造設計などにも注目

SPEC  
ZEAST ST1 (F/R 51x20+16) (R/O 51x20+22)  
カラー ブロンズ

# WORK GNOSIS FMB01 × BMW M2 ZEAST ST1 × BMW M4

## ホイール単体のスペックだけを追い求めないという姿勢 あくまでもクルマとのマッチング それがホイール選びのキモ

いまや国産ホイールを履くことのハードルは解放し、自分にあったホイール選びこそが大切な時代となった。走り特化したBMW専門プロショップ「TECH.M」が推奨するのは、コンセプトの異なる2本のワークホイールだった。

問 ■ ワーク [www.work-wheels.co.jp](http://www.work-wheels.co.jp)  
 問 ■ 協賛店 ● TECH.M TEL.072-561-1088 [www.tech-m-power.com](http://www.tech-m-power.com)  
 協賛店が東京・浜松・名古屋・高松・神戸・福岡  
 奈良・愛知・福岡・埼玉